2012MHC 登山講習　　－白馬岳大雪渓を登る－

8 月 4 日、早朝、参加者車に乗り合わせ松本を出発。AM7：30 白馬村役場駐車場に総勢 6 名が集合し 2 台のタクシーで猿倉登山口に向かう。天候は快晴。登山口で準備をして AM8：15 出発。緩やかな登りの林道を小一時間歩く。仰ぐ青空に白馬岳主峰が大きく聳え、夏草茂る道端に山アジサイ、ホタルブクロが咲き競う。林道が終り岩礫の登山道を暫らく登ると、白馬大雪渓末端となる白馬尻に到着する。

穏やかな登りの林道を行く

山アジサイ

ホタルブクロ

末端から望む白馬大雪渓

白馬尻で小休止後、準備をし直して登り始める。20 分ほどで、雪渓末端に着き、4 本歯アイゼンなどを装着する。吹き降ろす冷風に注意して、一歩、一歩固い雪渓に足場を確認しながら登る。雪渓上には、頭ほどの大きさの落石が散乱している。一時間半ほどで、雪渓を登り切り、ガラ場を詰めて、小雪渓へ向かう斜面をジグザグに登る。途中小雪渓から流れ落ちる渓流脇で、日陰を探して昼食を摂る。

白馬大雪渓を登る

クルマユリ

ハクサンフウロ

葱平を過ぎると、頂上宿舎が見える

昼食後、急斜面の小雪渓を左に見て、クルマユリ、シナノキンバイなど、花々の咲く葱平を過ぎると、稜線近くに建つ頂上宿舎の建物が見える。登山道脇には、ハクサンフウが咲き、ハクサンイチゲの大群落が広がっている。稜線に出ると、北方に高く屹立した山頂が望まれ、西からの微風に吹かれながら、花々の咲く稜線を登る。PM3：00 白馬山荘に到着、泊す。

山頂近くに建つ白馬山荘

杓子岳を背景に山頂へ向かう

白馬岳山頂 2932mに見事登頂

早速、荷を降ろし、一息ついて山頂へ向う。振り返ると、夏雲湧く南方向に杓子岳 2812m、白馬鑓ヶ岳 2903mが重なるように聳え、大迫力で迫ってくる。20 分程登ると、PM4：00 石の道標が建つ白馬岳山頂 2932mへ、全員登頂する。早速持ってきた缶ビールで乾杯する。「おめでとう！」

山頂からは、湧き上がる夏雲により遠望が効かないが、東側の絶壁を、恐る恐る覗き込むと、遥か眼下に、登ってきた白馬大雪渓の全貌が望まれる。北東方向には、名峰妙高山が雲間に見え隠れしている。

日が暮れると、夜空に満天の星が瞬き、輝く夏の星座に明日の好天を祈って就寝する。

翌 5 日快晴の朝、空を橙色に染めながら太陽が昇り、東に遠く雲海上に八ヶ岳、富士山、そして南に剣、立山など、北アルプスの峰々が徐々に照らされて荘厳な朝の儀式を迎える。朝食の後、明るく照らされた大自然の展望を楽しみながら、ゆったりと熱いコーヒーを味わう。

朝陽に照らされて荘厳な朝を迎えた杓子岳 2812m、白馬鑓ヶ岳 2903m

稜線越しに望む、朝の剣岳 2999m、立山連峰

AM6：30 過ぎ、白馬山荘から下山開始。三山縦走を急ぐ登山者らと稜線の分岐点で別れ、私達は往路と同じルートを降りていく。花々の咲く葱平を通過し、真っ白な大雪渓を転ばぬよう注意して下っていく。AM10：30 白馬尻、AM11：30 猿倉登山口に到着する。昼食後 2 台のタクシーに乗り込み、PM12：30 白馬村役場駐車場に到着、長野方面の人とはここで別れ、PM3：00 松本で最終解散とした

「大展望を楽しみ、白馬岳の真白な大雪渓を心ゆくまで味わった、まさに夏山讃歌の登山だった。」

MHC 登山講習責任者　MHC 理事長　鈴木雅則